

ちば経済フラッシュ

「ちば経済フラッシュ」は3、6、9、12月号に掲載します

千葉県経済の動き — 中小企業動向を中心に —

概況

県内経済は、着実な回復が続いている。

県内小売業の販売動向を見ると、雇用環境の好転や所得の増加のほか、株価上昇などの資産効果を背景に消費マインドが回復し、上向きの動きが続いている。県内の百貨店では、高額品（高級腕時計、絵画など）に動きが出てきたほか、寒波の影響や昨冬のボーナス支給額の増加もあって主力のファッション衣料が販売好調。自動車販売も軽自動車の売れ行き好調から前年を上回ったほか、外食産業では客単価の上昇、携帯電話販売は第三世代携帯電話への買い替えニーズの強まりから、それぞれ売り上げが増加した。旅行販売も企業収益の回復から、沈静化していた法人需要が盛り返しており、国内・海外ともに前年を上回った。一方、コンビニの売り上げは、競合激化から前年割れが続いた。

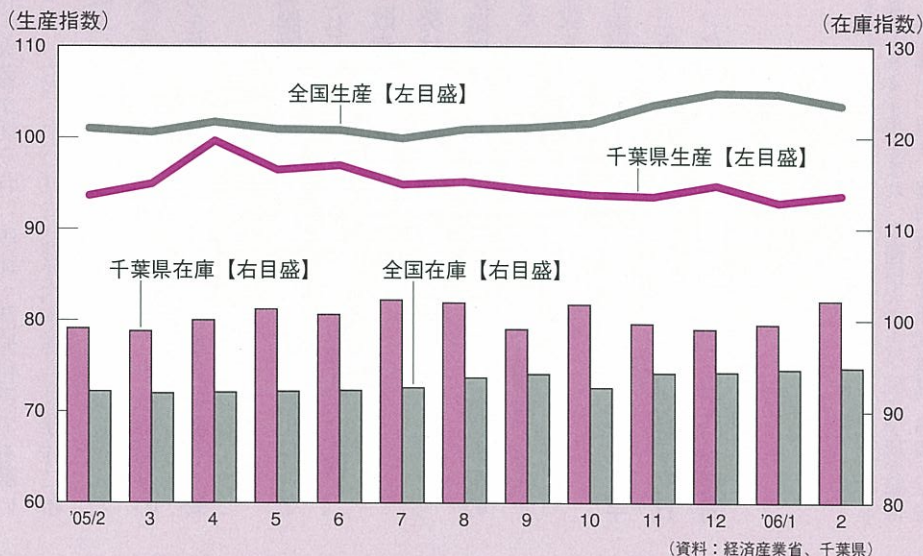
1～3月期の新設住宅着工戸数は、前年同期比+11.0%と二期連続で二ケタの伸びとなった。特に、分譲マンション（同+13.1%）が好調で、五期連続で前年実績を上回った。マンションの県内立地動向を見ると、京葉線沿線で新浦安→海浜幕張→千葉みなと方面へ建設エリアが南下している。また、つくばエクスプレス（TX）沿線や北総線沿線でグレードの高い高層マンションや大規模マンション建設のほか、駅周辺で用地物色の動きが強まっている。05年度の県内公共工事請負金額は同▲11.5%と三年連続で二ケタ減少した。

4月実施の千葉県企業経営動向調査によれば、05年度設備投資実績額（全産業）は、04年度実績比▲12.7%減少した。製造業では同+25.4%増加したが、非製造業では同▲39.4%減少した。期初計画比（同）では+4.0%上方修正されたが、なかでも製造業中小企業の上振れ（同+13.6%）が目だった。

06年1～3月期の有効求人倍率（季調済）は、〇・八七倍と二期連続で改善した。雇用形態別には、大型小売店の相次ぐオープンによる雇用増加もあって、パート（二・四八倍、同+〇・一四ポイント）の改善が目だった。

（関）

■鉱工業生産・在庫指数（季節調整済、2000年=100）



消費関連

県内小売業の販売動向は、雇用環境の好転や所得の増加、株価上昇による資産効果等を背景に消費マインドが回復し、全体としては上向きの動きが続いている。

すなわち、05年後半以降、百貨店や専門店モール、ショッピングセンター（SC）、通信販売などで売れ行き好調な先が見られるなど、幅広い業態で上向きの動きが広がっている。県内百貨店では、05年10～12月期に続き、06年1～3月期も前年実績を確保した。自動車

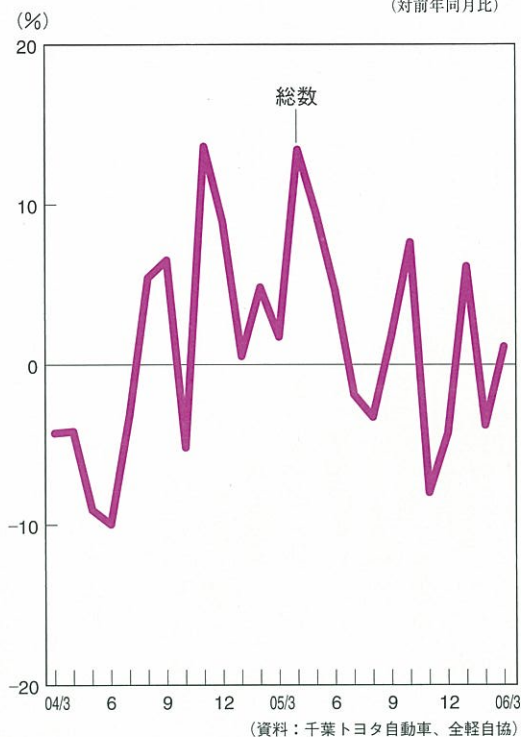
販売も軽自動車の販売好調から二期ぶりに前年を上回ったほか、ホームセンター売上も伸びを高めた。外食産業では客単価の上昇、携帯電話販売でも第三世代携帯電話への買い替えニーズの強まりから、それぞれ売り上げが増加した。旅行販売は、企業の業績回復を映じた法人需要の回復が全体を底上げし、国内・海外ともに前年を上回った。家具販売・家電販売も年明け以降は底堅い動きとなっている。

一方、コンビニの売り上げは、競争激化から前年割れが続いた。

（関）

■千葉県乗用車新車登録台数伸び率（軽を含む）

（対前年同月比）



食料品

県内食料品メーカーの生産BSIは四期ぶりに悪化し「減少」超となった（05年7～9月期▲一・八↓10～12月期一・五↓06年1～3月期▲五・二）。収益BSIも前回比▲九・五の▲八・一となり、二期ぶりに「悪化」超となった。

和洋菓子などの一部贈答用を除いた日用品は、景気回復による売上げの増加も見られず、同業者とのシェア争いが続いている。食料品スーパーなどでの特売に慣れた消費者の安値志向も根強く、原

材料価格や燃料費などの高騰分を価格転嫁できずに収益が悪化している。

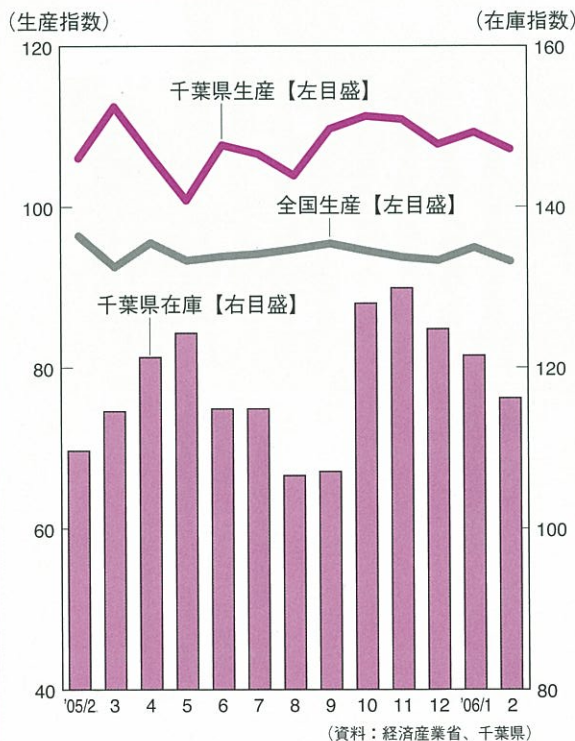
鳥インフルエンザ問題の影響で、国内消費が国産の地鶏などにシフトしていることや、海外で鶏肉消費自体が減少していることから、ブラジル産などの在庫が積み上がり、輸入鶏肉の卸値は約一年ぶりに値下がりした。

長期的に見ると、今後は食料品消費量の少ない高齢者の増加が予想され、これまでの商品構成にこだわらず、健康食品、化粧品原料など機能素材の研究開発に取り組む企業も見られる。

（菅合）

■食料品の生産・在庫指数

（季節調整済、2000年=100）



住宅・建設

06年1～3月期の新設住宅着工戸数は、前年同期比+11.0%と二期連続二ケタの伸びとなった。分譲マンション(同+31.2%)

は、耐震強度偽装問題の影響は限定的なものにとどまり、五期連続で前年実績を上回った。マンションの県内立地動向を見ると、京葉線沿線で新浦安→海浜幕張→千葉みなと方面へ建設エリアが南下しているほか、都心でのマンション用地の減少から、TX沿線や北総線沿線(千葉ニュータウン中央駅

周辺)で大型マンションの建設やマンション用地物色の動きが強まっている。

また、木更津市の「持ち家奨励金制度」(市内で新築の持ち家を新規取得する場合、三〇万円の奨励金を交付)には、住宅取得を促す効果が見られた。

06年1～3月期の県内公共工事請負金額は、前年同期比▲18.0%と大幅減少。05年度累計請負額でも同▲11.5%と三年連続の二ケタ減少、なかでも市町村は同▲21.7%と大幅減少し、公共工事の割合が高い県内業者には、厳しい状況が続いている。

(菅合)

機械

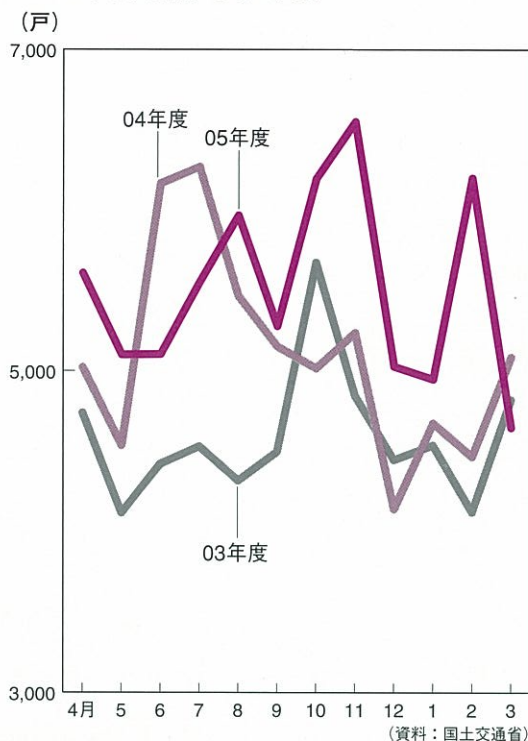
県内電気機械メーカーの1～3月期の生産BSIは、二七・八と05年10～12月期(二七・八)に続き高水準となっている。先行き生産BSIも三三・四とさらなる増加を見込む。これは、04年のアテ

ネ五輪後の在庫調整に伴う反動増によるところが大きい。企業規模を問わず、底を打ったと見ている先が多い。06年度についても、薄型テレビやワンセグ対応携帯電話の浸透による液晶製品や半導体製品の生産増を見込んでいる。一

方、汎用品中心に販売価格の引き下げ要求の強まりから収益は悪化しており、収益確保に向けて、高付加価値製品(次世代液晶、精密半導体製品など)の製造に注力し、価格競争を回避しようとする動きが見られた。

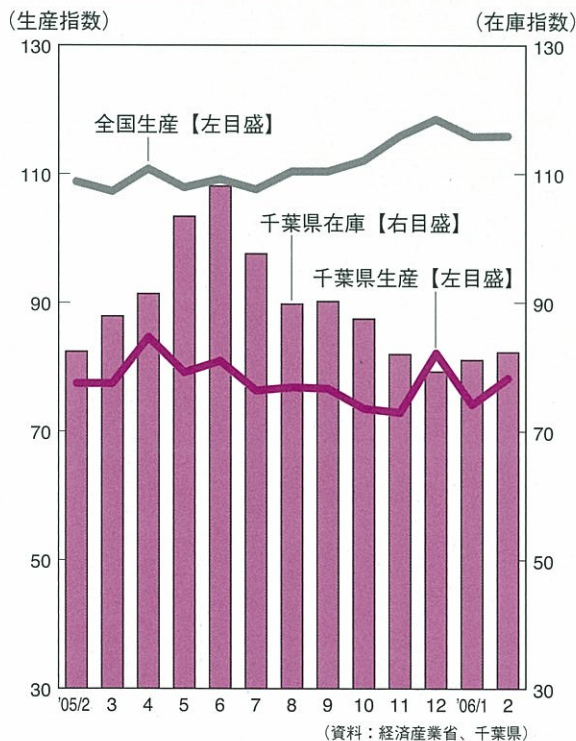
県内一般・精密機械メーカーの1～3月期の生産BSIは、▲三・六と前期比+三・六改善した。引き続き北米や中国向けの輸出が好調。国内も大企業設備投資は一巡したものの、中堅企業からの受注が3月以降増加しているとの声も聞かれ、4～6月期の生産BSI見通しは七・二と三期ぶりの「増加」超が見込まれている。(酒井)

■千葉県新設住宅着工戸数



■機械の生産・在庫指数

(季節調整済、2000年=100)



ITソフト

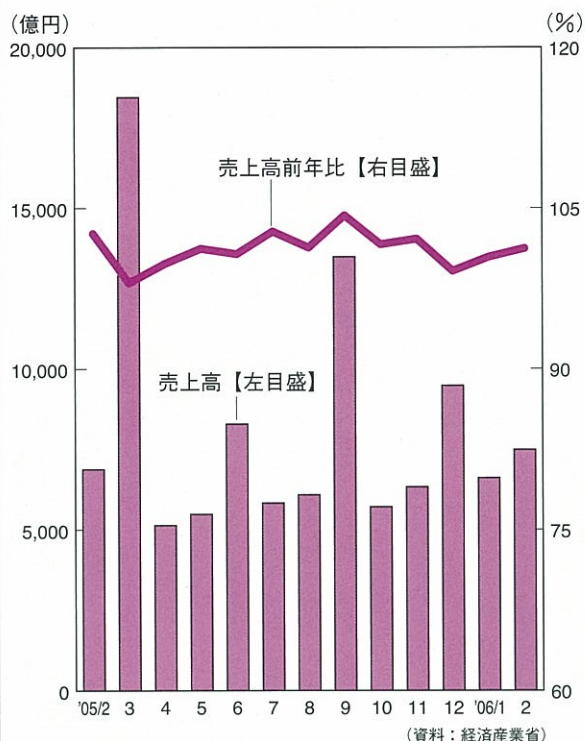
06年2月末までの情報サービス業(全国)の売り上げは、二か月連続で前年実績を上回った(前年同月比・1月+0.4%、2月+1.2%)。県内のIT関連企業四五社で構成する協同組合の経営動向調査でも、売り上げ・受注ともに増加傾向にある。業種別では、05年に引き続き造船・自動車などの製造業、銀行・証券などの金融業からの受注が堅調に推移しており、一部では人手不足から受注を断るケースも見られた。

情報管理に対する関心の高まりからデータ持ち出しが制限され、受注先社内での開発案件が増加しており、他の案件を並行処理できないことによる生産性の低下や、上級SEが部下の指導ができないことにより人材育成に支障をきたすなどの問題が出てきている。

受注単価面では、各システム会社が多忙なことから、急ぎの案件に対しては高めの金額を提示したり、大手システム会社を経由せずに、エンドユーザーから直接受注するなどの努力により、受注単価は上昇基調になってきている。

(菅谷)

■ITソフト産業売上高(全国)



窯業・土石

県内主要協同組合(北部・西部・中央)の06年1~3月期の生コン出荷量は、引き続き高水準で推移し、七期連続で前年を上回った(前年同期比・05年7~9月期+23.9%↓10~12月期+9.0%↓1~3月期+17.0%)。千葉北部協同組合(柏・松戸・野田など)では、イオン柏SCや、大型配送センター、大規模マンションなど民間需要が好調で、1~3月期の出荷量は前年同期比+35.2%と大幅増加した。

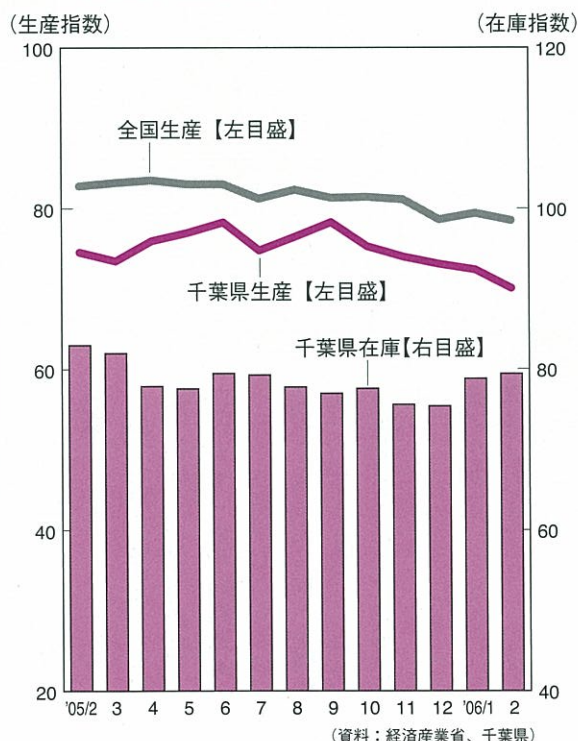
千葉西部協同組合(浦安・市川・船橋など)では、臨海部(浦安・船橋)のマンション建設に加え、イオン千葉ニュータウンSCやイケアなどの商業施設、物流センター向けの出荷が見られ、1~3月期の出荷量は同+15.9%増となった。

千葉中央協同組合(千葉・市原・四街道など)では、一部に耐震強度偽装問題の影響によるマンションの着工遅れなどが見られ、1~3月期の出荷量は三期連続で前年実績を下回った(前年同期比・05年7~9月期▲25.1%↓10~12月期▲20.4%↓06年1~3月期▲2.4%)。

(菅谷)

■窯業・土石の生産・在庫指数

(季節調整済、2000年=100)



鉄鋼 石油・化学

鉄鋼

06年1～3月期の県内高炉メーカーの粗鋼生産量は三四四・九万tで、前年同期比▲〇・五%とほぼ前年並み。輸出向け汎用鋼材の減産があったものの、造船、自動車、産業機械などで使用する高級鋼材は需要が旺盛であったことから増産した。

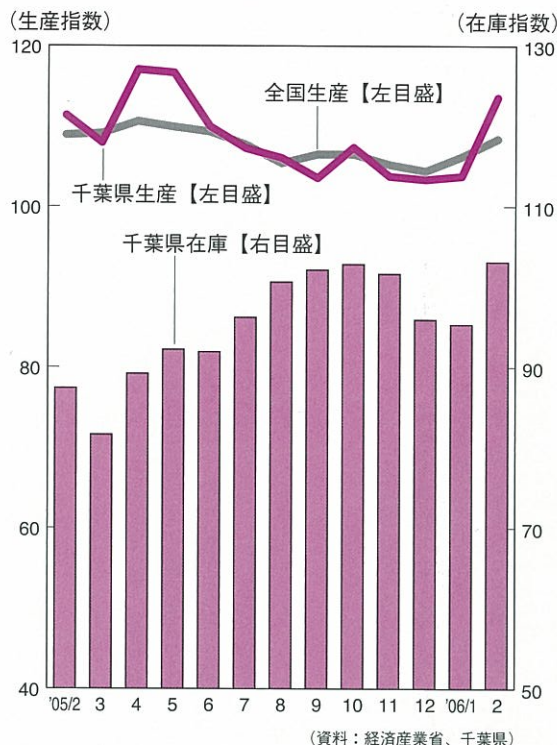
県内の鉄鋼・非鉄金属メーカーの生産BSIは、市中在庫の調整遅れなどから三期ぶりに悪化した(05年4～6月期四・二↓7～9月

期十一・六↓10↓12月期十二・五↓06年1～3月期〇・〇)。(菅谷)
石油・化学

県内石油・化学業界の1～3月期はドバイ原油価格が五〇ドル台後半で高止まりする中、最終需要家への価格転嫁が徐々に進展し、中小加工メーカーの中にも収益が改善した先が見られた。4月入り後には、同原油価格が六〇ドル台後半まで高騰し、大手化学業界ではさらなる値上げも検討されている。中小加工メーカーでは、過去最高に近い収益を上げている大手化学メーカーに対し、値上げはできるかぎり阻止する、と警戒を強めている。(酒井)

鉄鋼業の生産・在庫指数

(季節調整済、2000年=100)



農業・漁業

農業

05年末から続いた寒波と極度の少雨の影響で、1月中は根菜類やキャベツなどの成長が遅れ、市場出荷量は前年比▲一〇%以上減少した。しかし、2月以降は降雨もあり、月間の平均気温も平年を上回ったことなどから生育が回復し、出荷量は平年並みで推移した。

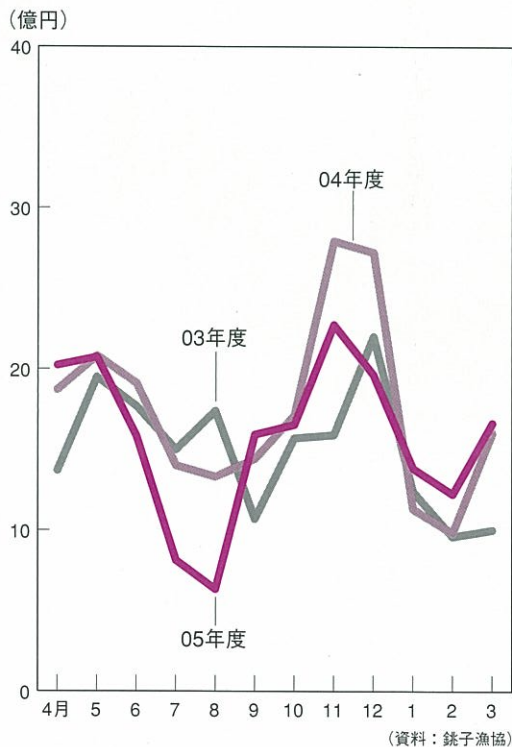
イチゴ農家では、1月まで気温が低かったことや原油価格高騰の影響で、ハウスの暖房費が例年の二～三倍かかり、ほとんど利益が出

なかったとする声が多い。(酒井)
漁業

銚子漁港の06年1～3月期の水揚げ状況をみると、数量(五万二四四九t・前年同期比▲十七・一%)は減少したものの、金額(四二・六億円・同+十四・八%)は一年ぶりに前年を上回った。勝浦漁港では、数量(二四七四t・同+二三・五%)、金額(十一・二億円・同+二六・九%)ともに前年を上回った。

県内の水産問屋では、所得増加により海水魚へのニーズが高まっている中国向けのサバ輸出を大幅に拡大するなど新たな需要を開拓する動きが出ている。(菅谷)

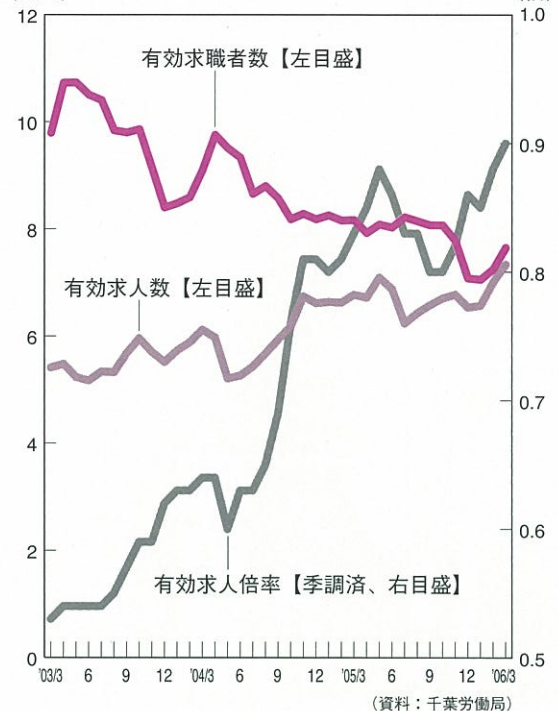
銚子漁港の水揚げ額



■千葉県内労働需給状況

有効求人・求職者数
(万人)

有効求人倍率
(倍)



雇用

千葉県の06年1～3月期の有効求人倍率(季調済)は、〇・八七倍と二期連続で改善した(05年7～9月期〇・八三倍↓10～12月期〇・八三倍)。雇用形態別には、一般〇・六八倍(前期比+〇・〇二ポイント)、パート一・四八倍(同+〇・一四ポイント)といずれも改善したが、なかでも、パートの改善が目だった。

有効求人数(季調済、月平均)は、前期比+三・〇%と三期ぶり

に増加。雇用形態別には、一般（同＋〇・九％）、パート（同＋六・四％）ともに増加した。一方、有効求職者数は、同▲二・四％と十五期連続で減少した。雇用形態別では、一般（同▲一・九％）、パート（同▲三・九％）ともに減少した。

4月21日に開業したイオン千葉ニュータウンSCでは、新規にパートを二〇〇〇人採用した（3月の卸・小売業のパート新規求人数…前期比＋四三・七％。県内ではこうした大手小売業の相次ぐ進出を映じて、さまざまな業種でパート・アルバイトの採用難の状況が強まっている。

（菅谷）

企業経営
動向調査
(BSI)

06年1～3月期の企業の業況判断BSI（全産業）は▲二・六と四期ぶりに悪化、水準も三期ぶりに「悪化」超となった。先行き（4～6月期）は○・四（実績比+三・〇）と再び「好転」超の見込み。

売上実績BSI(同)も▲○・四
(前回比▲三・三)と四期ぶりに悪

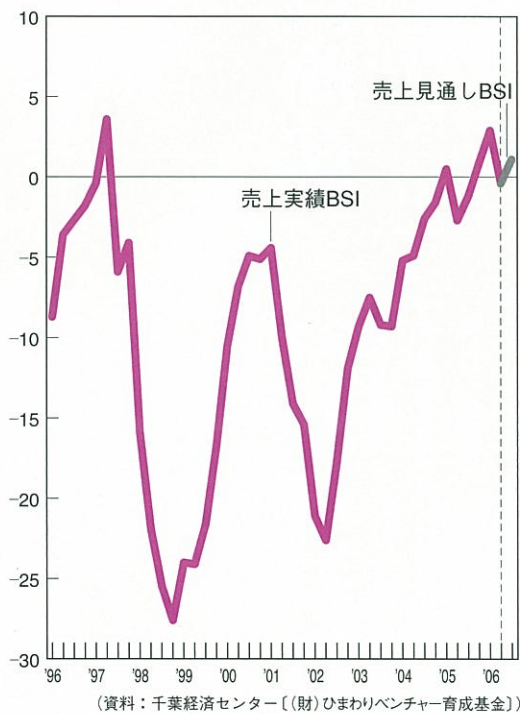
（前回比▲三・三）と四期ぶりに悪化、水準もわずかながら「減少」超となった。規模別には、非製造業中小企業（▲三・九）以外は「増加」超となっている。先行きは製造業、非製造業ともに「増加」超

の見込み。

05年度設備投資実績額(全産業)は、04年度実績比▲十二・七%減少した。製造業では同+二五・四%増加したが、非製造業では同▲三九・四%減少した。期初計画比(同)では+四・〇%の上方修正となった。なかでも、製造業中小企業は同+十三・六%上振れた。06年度設備投資計画額(同)は、05年度実績比▲十七・六%の減少となった。

雇用BSI（全産業）は七期連続で「不足」超となった。非製造業は92年7～9月期以来、十三年半ぶりに「不足」超幅が二ケタに拡大した。（酒井）

■企業経営動向調査 売上実績・見通しBSIの推移



注) 売上実績BSI=(「増加」-「減少」)÷2